



第3章 岡山市歯科保健基本計画（第2次）の基本方針

1. 口腔機能の獲得、維持・向上

取組の方向性 A. 良好な口腔領域の成長発育

a. 乳幼児期から学齢期における口腔領域の健全な育成

口腔機能（口の働き）は自然に身につくものではなく、適切に離乳食を与えること等により育成されます。健全な口腔機能の育成に関して、保護者に対する啓発等に取り組む必要があります。

今までの市の取組

- 妊婦・パートナー歯科健康診査時の保健指導
- 幼児健康診査受診時の保健指導
- 親子手帳・子育てのしおり等による啓発

今後の取組案

- ・ 口腔機能の健全な育成に関する情報を年数回、保育園・幼稚園・認定こども園に提供し、保護者向けの資料に掲載する。
- ・ 子育て情報アプリのプッシュ通知機能を活用し、口腔機能の育成に関する情報を適切な時期に提供する。
- ・ ターゲットとなる年齢を絞り、口腔機能の健全な育成に関するリーフレット等を歯科医師会等と共に作成し、配付・指導する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
園医等歯科専門職による口腔機能の健全な育成に関する歯科保健教育を実施する園の割合の増加	幼稚園・ 保育園・ 認定こども園	歯科アンケート	49.3% (園医等)	70%	
学校歯科医等歯科専門職による歯科保健教育を実施する学校の割合の増加	小学校	歯科アンケート	50.5% (学校歯科医等)	70%	

参考項目

項目	対象者	予定の調査等
口腔機能の発達が気になる幼児の減少		
口唇がきちんと閉じており、よだれかけが不要な幼児の割合の増加	1歳6か月児	育児環境調査 ・1歳6か月児健康診査
口唇の閉鎖不全である「お口ぽかん」の幼児の割合の減少	三歳児	三歳児健康診査

取組の方向性 B. 歯科疾患の発生予防

a. 永久歯（成人）のむし歯予防対策

乳歯のむし歯ほど、永久歯のむし歯は減っていません。全国的にも成人期のむし歯の有病者率が減少していないことや、永久歯の抜歯の原因の多くをむし歯によるものが占めたりしていること等から、永久歯のむし歯予防対策は、引き続き重要です。

一方で、フッ素塗布の実施割合が高まっていることや市販のフッ素洗口液が普及し始めたことなどから、集団の取組に加え、個人の取組にも重点を置きます。

今までの市の取組

- フッ素洗口
- 妊婦・パートナー歯科健康診査時の保健指導

今後の取組案

- ・ 6歳臼歯（第一大臼歯）が生えてくる小学校1年生向けの、永久歯のむし歯予防についてのリーフレットの作成、配付等を行う。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
フッ素塗布を受けたことのある幼児の割合の増加	1歳6か月児	1歳6か月児健康診査	44.0%	65%	令和4年度
むし歯のない幼児の割合（処置済も含め）の増加	三歳児	三歳児健康診査	88.4%	98.5%	令和4年度
定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	三歳児	三歳児健康診査	68.5%	90%	令和4年度
一人平均むし歯数（処置済も含め）の減少	12歳児 (中学校1年生)	学校保健概要調査	0.53	0.2	令和3年度

参考項目

項目	対象者	予定の調査等
家庭でフッ素洗口を実施している生徒の割合の増加	12歳児 (中学校1年生)	歯科アンケート
高濃度(1,400~1,500ppm)フッ素入り歯磨き剤を使用している生徒の割合の増加	12歳児 (中学校1年生)	歯科アンケート

取組の方向性 B. 歯科疾患の発生予防

b. 学齢期からの歯周病予防対策

歯周病検診の結果から、40歳代の歯周病の人が、増えていることがわかりました。歯周病菌に感染するのは、思春期以降です。学齢期の歯周病予防対策の取組が大切です。

今までの市の取組

- 学校保健安全委員会等の機会を活用した啓発

今後の取組案

- ・ 中学生向けの歯周病予防についてのリーフレットの作成、配付等を行う。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
歯ぐきに炎症所見を有する生徒の割合の減少	中学生	学校保健概要調査	20.4%	10%	令和3年度 歯・口腔の健康づくりプラン：10代における歯肉の炎症所見
学校歯科医等歯科専門職による歯科保健教育を実施している学校の割合の増加	中学校	歯科アンケート	25.5% (学校歯科医等)	50%	

参考項目

項目	対象者	予定の調査等
定期的に歯科受診している生徒の割合の増加	12歳児 (中学校1年生)	歯科アンケート 歯・口腔の健康づくりプラン：歯科検診の受診率
歯磨き時に出血を認める生徒の割合の減少	12歳児 (中学校1年生)	歯科アンケート 歯・口腔の健康づくりプラン：10代における歯肉の炎症所見

取組の方向性 C. 歯科疾患の重症化予防

a. 歯数の増加に伴う成人・高齢者のむし歯対策

健康市民おかやま 21（第 2 次）最終評価アンケートでも 80 歳以上の約 3 割の人は 20 本以上の自分の歯があると答えており、高齢者でも多くの歯を有しています。加齢や歯周病によって露出した歯の根は、むし歯になりやすいので、おとなのむし歯対策が必要です。

今までの市の取組

- 歯周病検診／口腔機能健診
- 妊婦・パートナー歯科健康診査受診時の保健指導
- 健康教育等の機会を活用した啓発

今後の取組案

- ・ 健康教育等の機会を利用し、おとなのむし歯対策に関する知識の普及を徹底する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17 年度)	備考
未処置歯を有する者の割合の減少	健診受診者	歯周病検診・口腔機能健診 (国保受診勧奨者以外)	29.5%	20%	平成 30 年度～令和 4 年度 歯・口腔の健康づくりプラン：20 歳以上の未処置歯保有者
フッ素洗口を実施している者の割合の増加	一般 (20 歳以上)	21 アンケート	16.3%	50%	
過去 1 年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20 歳以上)	21 アンケート	52.4%	95%	歯・口腔の健康づくりプラン：歯科検診の受診率

参考項目

項目	対象者	予定の調査等
高濃度 (1,400～1,500ppm) フッ素入り歯磨き剤を使用している者の割合の増加	一般 (20 歳以上)	21 アンケート

取組の方向性 C. 歯科疾患の重症化予防

b. 歯数の増加に伴う成人・高齢者の歯周病対策

国民健康保険加入者の歯科医療に関するデータから、歯周病で治療を受けている人が増えていることがわかりました。「歯周病」と診断を受ける人が増え始めるのは40歳前後です。成人期は、定期的な予防処置に加え、必要に応じた早期治療が必要です。

また、「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という「8020運動」が浸透し、歯を大切にすることが高まったことで、高齢になっても歯の数が保たれるようになってきています。歯の数を保つだけでなく、健康な歯を維持するために、生涯を通じて、歯ぐきの健康管理が必要です。

今までの市の取組

- 歯周病検診／口腔機能健診
- 妊婦・パートナー歯科健康診査受診時の保健指導
- 健康教育等の機会を活用した啓発
- 糖尿病リスク者（HbA1c5.6%以上）への歯科検診の受診勧奨

今後の取組案

- ・ 事業所職員を対象に研修を行い、歯周病対策の必要性に関する啓発を行う。
- ・ 子育て情報アプリのプッシュ通知機能を活用し、保護者向けの歯周病対策に関する情報を発信する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
歯周炎を有する者の割合の減少	健診受診者 (40・45歳)	歯周病検診 (国保受診勧奨者以外)	67.0%	25%	平成30年度～令和4年度 歯・口腔の健康づくりプラン：40歳代の歯周炎
歯間ブラシを使用している者の割合の増加	40歳代	21アンケート	57.1%	70%	
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20歳以上)	21アンケート	52.4%	95%	歯・口腔の健康づくりプラン：歯科検診の受診率
歯科健康教育を実施している事業所の割合の増加	事業所	21アンケート	10.3%	30%	

取組の方向性 D. 高齢者の口腔機能の悪化への対応

a. 成人・高齢者の口腔機能の維持・向上

65～69歳の約4割の人が、口腔機能が低下しています。生涯を通じて、食事や会話を楽しむためには、40～50歳代からの口腔機能の維持・向上に関する対策が重要です。

今までの市の取組

- 口腔機能健診、65歳市民への個別通知による受診勧奨
- 介護予防教室
- フレイルチェック
- 「あっ晴れ！もも太郎体操」の普及

今後の取組案

- ・ 健康教育等の機会を利用し、口腔機能の維持・向上に関する知識の普及を徹底する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値		備考
				(R17年度)		
現在歯数が24本以上の者の割合の増加	60歳 (55～64歳)	21アンケート	80.4%	95%		歯・口腔の健康づくりプラン：60歳で24歯以上の保有者
現在歯数が20本以上の者の割合の増加	80歳 (75～84歳)	21アンケート	63.9%	85%		歯・口腔の健康づくりプラン：80歳で20歯以上の保有者
口の体操を実施している者の割合の増加	50歳 (45～54歳)	21アンケート	3.9%	50%		
	80歳 (75～84歳)		16.5%	70%		
口腔機能が低下していない人の割合の増加	50歳 (45～54歳)	21アンケート	66.6%	85%		100-(100-現状値)/2
	80歳 (75～84歳)		35.7%	70%		